

『大人では思いつかない言葉』

田原市 ふたせがわ

こども園年長の孫は私とゲームをしたがる。iPadでやるゲームはボタンが無い。3Dゲームだと上下左右の操作が上手くできずグルグル回ってしまい、真っ直ぐ進むことが難しかったり、目の前のアイテムが取れなかったり、段を上がれなかったりで、もたもたしてしまふ。見かねた孫は私にこう言った。

「iPadはやめて、SwitchでMarioメーカーやろう」

Marioメーカーは2D横スクロールのゲーム。Switchの両サイドにあるコントローラーはボタンが付いていて、取り外して二人プレイができる。これならばあちちゃんでもできるだろうと提案してくれた気持ちはうれしい。とはいえ、昔流行ったスーパーマリオブラザーズさえやったことがない私。体よく断るつもりで言う。

「ばあちゃんはゲームが好きだけど操作が上手く出来

ないんだよね」

すると孫は間髪入れずに言った。

「じゃあ僕が教えてあげるね」

キラキラした瞳で言われると断れるものではない。仕方なくご指導を賜るが、私のルイージはその場ジャンプか歩くだけ。それでもゲーム開始から数十分経つとブロックの上に乗れるようになった。ホツとしていると孫がまじめな表情で私に言った。

「ばあちゃんはゲームがヘタクソからヘタになったね」

一瞬何を言われたか分からなかったが、すぐ気付いた。「ヘタクソ」の「クソ」が取れて「ヘタ」に格上げされたのだ。笑わずにはいられない。楽しそうな私に孫は言う。

「僕が教えてあげたからヘタクソからヘタになったんだよ」

「そうだね。教えてもらったからヘタになりました。ありがとうございます」

私がお礼を言うと孫は飛び跳ねて喜んだ。